

Book Fan Newsletter

発行:平成25年5月15日

編集:塩尻市立図書館

0263-53-3365

(Book Fan Newsletter 11号)

書店員が選んだ

今月のおすすめ本

『日本林業はよみがえる 森林再生のビジネスモデルを描く』

梶山 恵司 / 著 日本経済新聞出版社

塩尻(片丘)でも木質バイオマスのプロジェクトが進んでいますが、この著者は「日本林業は地域の重要な成長産業になる!」として、日本の林業の問題点をあげながら再生のための数々の具体策を提示しています。世界の森づくり・林業の紹介のほか、バイオマスエネルギー利用拡大にも言及しており、日本の進むべき道案内もしている一冊です。(神田堂 大塚さん)



『おたまじゃくしの101ちゃん』 かこ さとし / 著 偕成社

カエルのおかあさんに101匹のかわいいあかちゃんが生まれました。そこでおかあさんはみんなで遠足に出掛けようと思いますが、101匹もいるのでさあ大変! こども達をかぞえ始めると1人足りません。おかあさんは探しに行くのですがその途中、なんとザリガニやミズカマキリが現れて大変なことに…。

おかあさんとこどもの、お互いを思いやる気持ちが感じられるステキなお話です。(興文堂アイシティ21店 中沢さん)



『父 水上勉』 窪島 誠一郎(無言館館主) / 著 白水社

昭和52年夏、戦後生き別れとなった著者とその父・水上勉が奇跡の再会を果たします。本書は水上勉のエッセイや小説と著者の人生を織り交ぜながら再会までの道のりと再会後の父への一途な「敬愛」が描かれます。しかし、育て親の窪島家・自死を遂げる実母へは複雑な感情をのぞかせています。不条理に屈せず生き抜いた著者の赤裸々な評伝です。(中島書店 中島さん)



『ガソリン生活』 伊坂 幸太郎 / 著 朝日新聞出版

本書はなんと語り手が車、緑のデミオ。デミオを運転する良夫の家族が謎めく事故を解明していきます。全編に車たちのおしゃべりが出てきますが、運転したことのある方は、「ある、ある」と共感でき、車に詳しい方は、にんまり!?してしまう車たちも登場します。ミステリーあり&家族の絆あり、そして車への見方が変わるかも…!? (中島書店 内藤さん)



『からすのやおやさん』 ほか

「からすのパンやさん」 つづきのおはなし

かこ さとし / 著 偕成社

時代を超えて愛され続けるあの思い出の絵本が帰ってくる!!

『からすのパンやさん』の続編が40年ぶりに発売されました! 「からすのパンやさん」 つづきのおはなし、として4月中旬に『からすのおかしやさん』『からすのやおやさん』、5月中旬には『からすのてんぷらやさん』『からすのそばやさん』の全4巻が登場します。パンやさんの4羽の子どもたちが大きくなったら、のお話。

親から子へのプレゼントに。幼い頃ユニークなパンの数々にあこがれたあなたに。この機会に全巻そろえてみてはいかがでしょうか。(丸文塩尻書店 金子さん)



図 書 館 員 が 選 ん だ

今月のおすすめ本

『子どもの発達にあわせて教える 4 手・指の使い方編』

発達協会 / 編 合同出版

発達にハンディーキャップをもつ子ども達と保護者に日々接している療育スタッフが、社会的自立に必要な生活術を教える方法や工夫を具体的な場面に則して紹介するシリーズ、全6巻の4冊目です。

子ども達の学びたい気持ちにどう配慮すれば、信頼関係の中で自立のための力を育めるのか。専門家ならではの、知っていれば必ず役に立つ工夫がたくさん詰まっています。シリーズは、ほかに、食事編、排泄・清潔編、着脱編があります。 (育児書担当 山本)



『「漢字」間違っているのはどっち?』

守 誠 / 著 青春出版社

似て非なる漢字、使って恥をかうしてしまう漢字、わかっているつもりでも、いざとなると思い出せない漢字・熟語を多数例にあげ、クイズ形式で楽しみながら漢字を学べます。日常生活では、特に意識することなく読んでいる漢字でも、いざどちらが間違っているかと問われると…。 (語学分野担当 太田)



『シェアハウスで暮らす』

シェアパーク / 監修 誠文堂新光社

最近よく耳にするシェアハウスですが、実際にはどのような生活をしているのでしょうか。シェアハウスだからこそ、良いところや悪いところだけでなく、実際に住んでいる人の声も紹介されており、シェアハウスについて多面的に知ることができます。

(社会科学分野担当 矢ヶ崎)

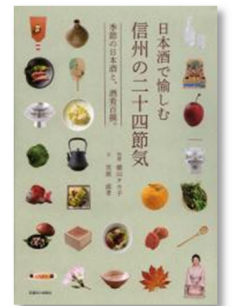


『日本酒で愉しむ信州の二十四節気 季節の日本酒と、酒肴百撰。』

横山 タカ子 / 料理 宮坂 直孝 / 文 信濃毎日新聞社

日本酒の蔵元当主と料理研究者による日本酒と酒肴のレシピ本。

季節の節目となる二十四節気ごとに旬の食材を使った料理が紹介されています。5月21日、小満(しょうまん)のテーブルは、信州ならではの月遅れの端午の節句の料理。季節感あふれる暮らしの指南書としても楽しめます。 (家政分野担当 小口)



『建築家と小説家 近代文学の住まい』

若山 滋 / 著 彰国社

本書は、建築学の専門家である著者が、夏目漱石や谷崎潤一郎などの近代文学に表れる「住まいの表現」とおして、建築と文学の歴史に橋渡しをしようとしたものです。たとえば夏目漱石の『こころ』には「先生の下宿」が登場しますが、これを建築物としての表現に注目して読んでみると、登場人物の存在している世界が立体感のある空間として、よりリアルに感じられます。小説の世界を楽しむための新たな視点を得られる一冊です。

(技術分野担当 大澤)

